

## 令和2年度 学校総合評価

### ○ 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」においては、「わかる」授業を目指し、全体および各科目で60%を設定した。休校後の学校再開が6月となったことから、今年度は12月のアンケートの結果のみとなるが、全体および5教科の割合で「ほとんど分かる」「分かる教科が多い」の合計は60%を上回った。今年度は、他校での公開授業や教育セミナー等への参加ができなかったが、互見授業について期間を設定せず、各教科・科目の職員間の日々の情報共有を重視するように努めたことで「わかる」授業につながったと考えている。また、クラウドサービスとICT機器の一層の活用に関する研修会を2回実施したが、次年度も引き続き研究を進めたい。

「学校生活」においては、昨年度より、生徒指導方針を生徒に寄り添い「カウンセリングマインド」をもって行なう形にしている。さらに、保護者との連携を密にし、学校と家庭の両面から生徒の成長をサポートしている。生徒たちについては、総じて元気で素直な生徒が多く、落ち着いた雰囲気、学習・部活動、学校行事にと頑張っている。一方で、人間関係（友人・家族等）や学習・部活動で悩んでいる生徒も少なくない。全体としては、特筆すべき大きな生徒指導上の問題はなく生徒たちは落ち着いて学校生活を送っていると考えている。

「進路支援」においては、大学だけでなく、もっと先の将来を考えていくことも大事であることから、社会人から職業についての話を聞くなど進路ガイダンスの充実に向けてきた。進路選択の満足度については、全体として満足度がわずかであるがアップするなど充実してきているように思える。また、面接を行うにあたっては、生徒の進路意識とアドバイスをを行うタイミングが重要である。今年も担任の他、教科担当や部活動顧問が生活面や学習面の指導、進路指導などに関わった。

「特別活動」において、コロナ禍のため体育大会を実施できなかったが、部活動については、交流大会を実施していただいたことにより、前年度並みの活動ができたことと生徒は感じているようである。また、生徒会が自ら企画して運営した水橋プロジェクトの「灯籠を飾ろう」プランや、球技大会と文化活動発表会、芸術鑑賞会を同時に開催するプランの提案など、生徒の成長を感じることができた1年となった。

P T A活動への参加者数の割合は年々増加している。絶えず連携をとることで、多くのP T Aの方々が多様な学校行事に積極的に参加してくれた。また、定期的に「学校安全メール」を配信することにより、保護者への連絡がスムーズにできた。

### ○ 次年度へ向けての課題と方策

わかる生徒60%の背後には、そうでない生徒40%がいることから、学習活動では、「授業改善」を一層進め、ICT機器の活用を促進しながら、生徒にとって分かりやすい授業、楽しい授業の実践に向けて研究を重ねる。また、生徒の主体性を伸ばし、思考力、判断力、表現力などこれからの社会で必要とされる資質・能力の育成に力を注ぐ。

学校生活については、感染症対策等、新たな生活習慣が求められており、それに向けての方策を進めるとともに、公共心を育てる指導を行う。また、安全意識・防犯意識の向上を図るとともに心に関する専門家による講演会等の実施を計画する。

進路支援については、オンラインによるオープンキャンパス等にできる限り参加する機会を持たせ、面接の充実を図ることで各自の進路について考える機会を増やし、自らの適性を考え、主体的に進路選択ができるように進路行事等を企画実施する。

次年度末の3月に、本校は歴史に幕を下ろすこととなる。閉校までの教育活動を充実したものにするために実施している「水橋プロジェクト」を更に推進し、最後の卒業生が無事巣立っていくまで、学校関係者の皆さんの知恵と力をお借りして、生徒の教育活動を最大限支援していきたい。